

「想いでオルゴール」
—Photo CDを利用した個人の記憶のカプセル化のためのメディア—

村田利文
murata@visionj.co.jp
ビジョン・コーポレーション
060 札幌市北区北7条西1丁目丸増ビル18

個人が作成し、自分自身や周辺の人が鑑賞するための、パーソナルなマルチメディア編集環境を開発した。ビデオなどのマルチメディア素材はまだ通常の人々には扱いがたい。特別なスキルのない人が抵抗なく取り扱えるのは写真などのスチルな素材である。特に写真は多くの人にとって、想いの込められたメディアである。「想いでオルゴール」では写真データを素材として、その場でのトリミングや拡大縮小、BGMの付加など、電子アルバムで初めて可能になる機能を提供した。写真をスキャンする機材の問題、画像のクオリティの問題に関してはPhoto CDに対応することで解決した。

外部仕様としては、特別の知識やスキルなしに、個人が大事にしている思い出を格好よく編集・演出できるよう、とぎれないBGM、BGMと独立したナレーション・トラック、写真間のグリッド機能、クオリティの高い素材データの提供などの工夫を行った。

本開発は家族内のコミュニケーションのためのメディアの新しい提案でもある。

Omoide Orgel
"a PhotoCD based media for encapsulating personal memories"

Toshifumi Murata
VISION CORPORATION
Marumasu Bldg. 18, North-7 West-1, Kitaku, Sapporo 060 Japan

We developed a personal multimedia environment for viewing with his or her family and friends. Movie data is still hard to handle for the beginners. But still pictures can be easily manipulated by even the novice. Especially, we place a lot of memories in photos. "Omoide Orgel", our product, offers new functions in the electronic album application, such as trimming by direct operation and addition of music. By featuring Photo CD access, users don't need any film scanners and don't have to pay attention to the quality of the images.

For beginner, we implemented continuous music play, independent narration track, gridding, and high quality photo data.

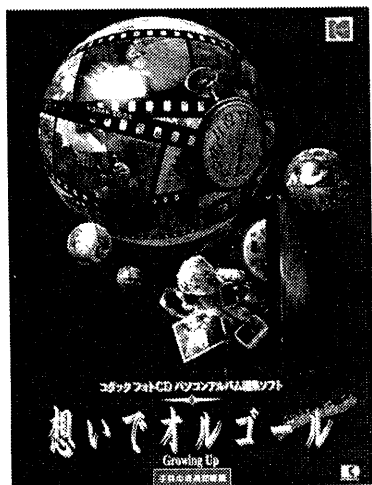
This development is also a proposal for a new type of communication for the family.

1. 私的なものに人は感動する

いわゆるマルチメディア・タイトルと呼ばれるものは数多くありますが、玉石混淆の状態で「感動を呼ぶ」というレベルに達しているものは、なかなかありません。その中で初めてヒトを泣かせたタイトル、と言われているのがVoyagerが発表した"I Photograph to remember"です。これは写真家Pedro Meyerが、病に倒れる自分の両親を記録した写真を、抑制の利いた演出で「マルチメディア化」したものです。派手な映像や表示テクニックをてんこ盛りにしたタイトルが多い中で、これは約100枚のモノクロ写真と、写真家自身の訛りのある訥々としたナレーションと、控え目のピアノのBGMのみで構成されています。インタラクティブ性も最小限で、コマンドは「前後に進む」と「メニュー画面へ」しかありません。非常にローテクな、しかも極めて私的なタイトルが、人々を最も深く感動させたというわけです。

このタイトルは、Pedro Meyerが写真を見せながら話すのを聞いたVoyagerの社員が、そのままマルチメディア化したものだそうです。成功したタイトルが、実は作為的なものでなく、最初の感動をストレートに表現したものであったことは教訓に富んでいます。

"I Photograph to remember"の場合、他人の家族の記録を自分の家族に重ね合わせ、その結果感動するという構図があります。とすると肉親への愛情とか、家族への様々な想い、あるいは自分の個人的な経験を、写真と演出を通じて、少なくとも本人たちにとっては十分感動的な表現に昇華させることができるように思えます。"I Photograph to remember"は無演出ではなく、押さえた巧妙な演出があり、そのために深い感動をもたらします。誰がやっても勝手に趣味のよいタイトルになってしまうような、感動をもたらす編集の枠組みを考えられないかというのが、この「想いでオルゴール」の開発の第一のテーマです。



【図1】「想いでオルゴール」のパッケージ

2. 動画や3Dの前にまず平面構成

マルチメディア時代といわれる現在、マルチメディア編集が可能な環境が非常に安く手に入るようになって来ました。先日ダイエーで私が買った89,000円のMacintosh Performa 630にはビデオのチューナーとデジタイザ、デジタル編集ソフトがバンドルされていました。これだけで取りあえずマルチメディア編集ができます。ところが用意する側の「可能」と利用する側の「可能」との間には大きな開きがあります。デジタル画像を切ったりつないだりできるということ、サマになるビデオを制作するということは全然違います。シロートにとってかっこいいビデオを作るというのはほとんど不可能です。

ところがアルバムならばたいの人が編集の経験を持っています。アルバムの編集は写真の組み合わせや順番を考えて台紙に並べ、キャプションを書いた紙を貼り付けたりするだけです。アルバムがサマにならないということはほとんどありません。ビデオ編集ではなかなか納得のいくものを作れませんが、平面構成ならばクリエイティビティを誰でも発揮できるように思われます。

アルバムを電子化すると、大きく引き伸ばした写真を使うとか、トリミングをするということがごく簡単にできるようになります。本物のアルバムにはBGMがありませんが、電子アルバムならば音楽を聴きながらアルバムを見ることができます。演出上、BGMは大変重要な要素で、一旦音楽を付けた電子アルバムから音楽を取り去ると大変に間が抜けてしまいます。

3. Photo CDというデジタル写真

デジタル写真を取り扱うに当たって、KodakのPhoto CDという写真メディアは非常に有効です。

Photo CDは最大2048x3072ドットの大きさで写真画像をデジタル化したものです。全国のどこでもDPE屋さんでフィルムを持ち込めば100コマで10,000円程度の価格でPhoto CDに焼き込んでもらえます。5段階の解像度で同じ画像がCDに格納されますので、表示領域が小さいときには小さいデータを読み込むことでCDの読み取り時間を短くできるようになっています。

このPhoto CDは、かつてCDの読み取り速度が遅かったことや、主に画像処理のプロがスキャナ代わりに使うという用途に特化して利用されてきたことが原因で、長いこと一種の蓄積型データベースとしてしか利用されませんでした。ところがCDドライブの読み取り速度が速くなってくると、ダイナミックにアクセスされるメディアとしても使える可能性が出てきました。

電子アルバムに応用すると、利用者は元画像の解像度を一切考えなくても最小の読み取り時間で十分なクオリティの画像を表示させることができます。Photo CDは格納データに独自の形式を採用し、さらにスキャン時にメーカーごとのフィルムの特性を補正するなどして、色の再現性が非常に高くなるようにできています。そのため自分で写真やフィルムをスキャンしたときよりも格段に良質の画像を得られるというメリットがあります。

CDドライブがほとんどのパソコンにバンドルされるようになった現在、Photo CDは個人にとっても容易にアクセスできる有効なメディアになって来つつあります。

4. 商売人は商売をしながら考える

さて、こうしたいくつかのことを考えあわせた結果、個人用の電子アルバム編集ソフトを93年の11月から開発し始めました。協力を得られそうな企業にプロトタイプを見せ、提携を進めた結果、95年7月に「想いでオルゴール for Mac」、8月に「想いでオルゴール for Win」、12月に「Album Papa」を発売することができました。Macintosh版及びWindows版の「想いでオルゴール」は日本コダックが発売し、そのうちのWindows版はDATT Japanが開発しています。また、Macintosh用の「Album Papa」をアスキーが販売しています。(それぞれの版で仕様決定、開発、サンプルデータ作成、マニュアル制作、デザイン、販売戦略などの担当が分散しており、当社が全ての著作権を持っているわけではありません。)

この電子アルバムソフトの開発コード名は"Album Papa"です。お父さんが子どもたちの成長記録を電子アルバムとして編集し、家族や友人に見せるためのソフトという意味です。家庭に入り込んだパソコンというのは気味悪くもありますが、お父さんが作り、家族に見せるという、開かれたコミュニケーションのツールとしてパソコンを利用するための企てという意図も、このソフトにはあります。

5. デモ

<当日、会場にて>



【図2】 Play中の画面



【図3】 編集中の画面

6. テイストの強制とクリエイティビティ

このソフトはどんなものでも作れる必要はなく、一定のテイストの作品を作るためのソフトです。「やさしさ、おだやかさ、あたたかみ、あやうさ、ものがなしさ、しんみり、ゆったり」といった感覚が伝わるようなアルバムを作ることがこのソフトの目的です。例えば「娘が嫁に行くとき、自分の部屋で娘の小さいときの写真を見る父親の気持ち」を伝えたいわけです。

しかし一方でアルバムを作る側としてはパターン通りの表現ではなく、独自性を求めています。このツールによってお父さんはクリエイティビティを發揮したいわけです。人は何によってクリエイティビティを發揮できたと思うのでしょうか。完全に制約がなければ原理的にはどんな表現も可能なのですが、適当な枠組みがないと考えたり、試したりする

ためのガイドラインすらないことになってしまいます。

自由さ、簡単さを実感でき、その結果、いろいろと試行錯誤ができ、完成したものがそれなりのテイストが感じられるような、適度な制約があるエディタとして、我々は次のような外部仕様を考案しました。

- ・ PhotoCD中の素材写真はフィルム状に表示、Drag&Dropで貼り付ける
- ・ 写真編集はモードレスで移動、拡大縮小、トリミングの指定ができる
- ・ 写真同士、写真とキャプションの縦横位置が勝手に合う
- ・ 写真の外枠は幅の狭い白、台紙は無彩色の地紋（デフォルト値）
- ・ 写真の白黒化、セピア化を簡単に指定できる
- ・ トリミング枠4種、背景パターン12種を用意。組み合わせで利用
- ・ BGMの切り替え、停止の際には必ずフェイドアウトする
- ・ ナレーショントラックを用意。BGMに被せナレーションを流すことも可能
- ・ 単純な5種類のワイブ効果を選択できる
- ・ 懐かしさのただようBGMを数曲バンドル
- ・ 好みの音楽CDからHDに音楽を録音し、BGMとして利用できる（Mac版のみ）
- ・ 懐かしさのただようイメージ写真をバンドル
- ・ サンプル写真で作ったサンプルアルバムを用意

作者が意匠を凝らしたいのは写真の内容、組み合わせ、トリミング、配置であって、まずこれらを簡単、自由にできることが第一です。次にBGMは自分の思い入れのある音楽を使いたいわけですから、アプリケーションを使ってミュージックCDをハードディスクに録音して（個人で楽しむだけのために）BGMとして利用することができるようにしました。電子アルバムならではの楽しさを協調するために、テクニカルな表示もいくつかサポートしています。そのうち特にワイブ効果についてはかなり重要です。

これ以外の部分は簡便さが肝要で、独自性が求められるような部分ではありません。こうした割り切りによってアプリケーションの外部仕様を単純に、理解しやすいものにするのが重要だと思われまます。

- ・ 論文調の文章で書くことに抵抗感があり、口語的表現にさせていただきました。
- ・ Album Papaはビジョン・コーポレーションの登録商標（申請中）です。
- ・ 「想いでオルゴール」、ビジョン・コーポレーションについて詳しくは<http://www.visionj.co.jp/>まで。